

付録 WFDF 世界記録

規則

報告：

記録が公式記録として認められるためには、そのプレーが行われた大会が、WFDF または各国の協会の認可した大会で、WFDF の競技形式にのっとって行われたものでなければならない。新記録の情報はできる限り早く WFDF 理事会に報告すること。その際、世界記録報告用紙にもれなく記入し、トーナメントが認可されたもので、正しく運営されたことの証明を付けなければならない。可能なときは、動画資料の提出が奨励される。以下に記されるいくつかのケースでは、動画の提出が必須となる。

年齢別部門の記録についての例：

ユース部門の例

「アンダー 14」部門の選手は、その選手の 14 回目の誕生日を競技実施日または競技実施日より前に迎えてはならない。

シニア部門の例

「オーバー 80」部門の選手は、その選手の 80 回目の誕生日を競技実施日または競技実施日より前に迎えないといけない。

ギネスブック記録：

WFDF は、すべてのフライングディスク記録に関するギネスブック記載の窓口となっている。改訂前に各種の新記録を提供しているが、編集者がその権利において選択したものだけが掲載される。

個人種目：

ディスタンス、MTA、TRC において、一日当たりにおける競技回数は、3 セット（1 セットは 5 投）以下でなければならない。ルールの解釈が不確かな場合には、最も厳しい解釈を採用することが推奨される。いかなる競技においても、立会人による熟練した審判が必要である。

ディスタンス：スローは平らな地面で行われなければならない。一見してわかるような斜面は認められない。屋外での記録に関して風速の制限はない。測定は、cm 単位で行われる。ローラーディスタンスについては、飛距離の少なくとも半分はディスクが地面上を転がらなければならない。アップサイドディスタンスについては、ディスクの上面または頂部を地面に向けた状態でリリースされなければならない。さらに、着地時も含めた全飛行中においても、アップサイドダウンのこの状態が保たれていなければならない。

MTA：平らな地面で行われなければならない。計測には 3 つのストップウォッチを使い、それらの測定タイムうちの中間のタイムが公式記録となる。計測は 100 分の 1 秒単位で行われる。

TRC：平らな地面で行われなければならない。

アキュラシー：標的と競技フィールドが、WFDF の基準に沿ったものであること。

子供（アンダー 13）や犬、ミニディスクなど、「その他の種目」とされる全ての種目：

「その他の記録」は、通常の競技以外の場で行われてもよいが、そのフィールドの形と大きさは通常の基準に適合していなければならない。

ガッツスピードキャッチ：通常のガッツのコート（14m 間隔）でファールラインを挟んでスローとキャッチを行う。ディスクは身体の部分を使ってボブリングやチップングをすることなしに、片手

でクリーンキャッチされなければならない。この間、認められた係員がレーダー測定器を使ってスローのスピードを測定する。

ボディーロール (Big Chest Roll) :

人の手で投げたディスクで行わなければならない。いかなる機械的な補助も認められない。最初の選手以外は、全員腕を組み合わせていなければならない。ディスクが通過する際に、腕や手でディスクに回転をつけてはならない。その他の身体の動きは自由に認められる。この記録の承認には、編集されていない、連続した、ボディーロールの一部始終が目視で確認できる動画が必要である。

連続ボディーロール (Consecutive Chest Roll) :

この記録の承認には、編集されていない、連続した、ボディーロールの一部始終が目視で確認できる動画が必要である。

車椅子記録：車椅子を使用したプレーヤーの、フィールドイベントの記録は、その障害の度合により、クラス分けされる。

クラス 1 - 胸部から下の麻痺の方

クラス 2 - 腰から下の麻痺の方

クラス 3 - 下肢を失った方または腰を動かせる方

団体記録：

以下の種目に使用するディスクは、ヴィンテージクラスでなければならない (804.08A 参照)。

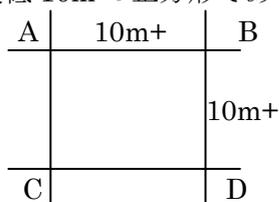
グループマラソン：参加者数に制限はない。常に 2 人以上のプレーヤーが 14m 以上の間隔でプレーしていること。ディスクのやりとりなしに 30 秒以上経過してはならない。

2 人マラソン：2 人の間隔は 14m で、ディスクのやりとりなしに 30 秒以上経過してはならない。1 時間ごとに 5 分間の休憩が認められる。休憩をとるかどうかは自由であり、休憩を積み立てることもできる (例えば、3 時間プレーすれば 15 分休憩できる)。休憩時間のルールが守られなかった場合には、その競技自体が無効となる。休憩時間も含めた時間の合計が記録時間となる。但し、使わなかった休憩時間は最後に加算されない。マラソンにおいては、記録を破りたいあまりに、限界を超えてプレーを続けがちである。危険なことにもなりかねないので、十分に注意する必要がある。参加者は事前に医師の診断を受け、また睡眠も殆どとれないマラソン中には、医師の監督をつけるべきである。

24 時間ペアディスタンス：最低 10m 間隔の 2 本の平行線が競技フィールドとなる。正確に証明する書類が用意できれば、競技中に 10m 以上の間隔でプレーを行ってもよく、また 2 本の平行線の間隔をプレー中に変更してもよい。一方のファールラインの後方でディスクを所持している 2 人のうちの一方のプレーヤーから、もう一方のファールラインの後方にいるもう一方のプレーヤーにディスクが移動する毎に、そのライン間の距離が、合計距離 (トータルディスタンス) に加算されていく。プレーヤーは、一方のファールラインの後方から、他方のファールラインの後方にディスクを持ったまま移動する場合も含む、あらゆる方法でディスクを移動してもよい。ショートスローの場合は、ディスクを拾ってファールラインの後方まで運ばなければ、そのスローの距離は合計距離 (トータルディスタンス) に加算されない。オーバースローの場合、そのままファールラインの後方から投げかえしても良いが、合計距離 (トータルディスタンス) に加えられる距離は、その時点でディスクが移動されたライン間の距離だけである。時間計測は、最初のスローのリリースと同時に始められ、最終的な距離の計測は、24 時間経った時に、ディスクが所持されている位置、または、飛んでいる位置で測る。もし、ディスクが交換されたら、前のディスクが取り除かれた地点からプレーを開始する。プレーヤーは自由に休憩をとってよい。

24 時間グループディスタンス：何人でプレーしてもよいが、一度にプレーするのは 4 人だけである。

この競技の公平を期すために、プレーは、公式のグループディスタンスフィールドを用いる。フィールドは、一辺が最低 10m の正方形である。



プレーヤーは A, B, C, D に位置し、A・B・C・D の順、もしくは逆にスローをする。1 周が成功を認められるには、それぞれのコーナーのサイトにいるプレーヤーがディスクを所持されなければならない。もし、スローが失敗した場合、ディスクを回収して、サイトに持っていった後に、次のサイトにスローしなければならない。ラップジャッジは、常に、プレーヤーと周回を記録しなければならない。時間の計測は、最初のスローのリリースと同時に始まり、最終的な計測は、24 時間経った時に、ディスクがある位置、または、浮いている位置で測る。ディスクが交換されたら、前のディスクが取り除かれた地点からプレーを開始する。

マラソンアルティメット、ガッツ：プレーは公式 WFDF ルールに従って行う。ハーフタイム、タイムアウト、各試合間の 10 分のインターバルもそのままである。アルティメットは 15 人以上、ガッツは 7 人以上のチームで行い、プレーヤーの交代回数に無制限に認められる。

2 人ディスクソンマラソン：1 チーム 2 人のプレーヤーが、リレー形式で交互に、通常ディスクソンの手順に則りながら、1 km 丁度の長さのディスクソンコースを、順番に通過する。コースの長さは、最短の走行距離で測定され、すべてのマンドトリーにはペナルティがない。競技を始める際には、2 人のプレーヤーは、リレーを始める前に追加の 195m を行う。これにより、総距離がマラソンと全く同じになる。1 km ごとに、ラップタイムを計測する。常に 3 枚のディスクが使用できるように、必要に応じてディスクの交換が認められる。

書類と証明：記録を申請するにあたり、決まった形式の書類はなく、申請料も必要ない。いかなる場合でも、証明にかかる費用は、申請者が負担する。文書化されていない申請書は受け付けない。前述したとおり動画資料は奨励され、また申請記録によっては、必須である。

申請にあたり、地方紙、全国紙などの新聞、またはラジオ、テレビなどで報道された記録を得るべきである。新聞の切り抜きには、新聞名、発行地、掲載された日付を書き添えること。できれば、記者名と、白黒またはカラーのプレーしている写真も提出する。ビデオは提出してはならないが、後日、検証する際に必要になるかもしれないので保管しておくこと。

申請はまた、独立した、公正な成人の証人、または、その地域を代表する組織の代表者の署名の入った証明書を提出すること。必要に応じ、管理機関による批准が示されている署名の入った書類が提出されなければならない。証人がプレーに関して知識のより多い人であるほど、申請の確認度が高まる。

署名の入った記録帳には、プレー中を通して監視人がついてきたことが記されていないなければならない。その記録帳には、時系列順にプレーの時間と休憩の時間と長さが記されていないならない。また、記録帳は、判読及び理解できるもので、開始と終了の時間と共に、2 人以上の証人（常に 2 人以上が現場にいないなければならない）の署名がなければならない。また必要に応じ、プレーのレベルを証明するために、スコアシートも添える。

全ての提出物は、WFDF の所有物となる。返信先と切手を貼った封筒を同封していれば、返送するが、保証はしない。